

## 公明党 森 しず子 議員



- 1 施政方針について
  - (1) 経済対策について
  - (2) 緊急医療体制づくりと子供の育成
  - (3) 生活に密着した安心・安全

**質問1(1)** 国や県の経済対策との整合性を図り、市としては具体的にどのような取り組みをするのか。

**答弁1(1)** 中小企業等の支援、生活支援を実施し、相談業務の拡充を図る。また、雇用の創出や住宅の提供等も行っている。

**質問1(2)** 鈴鹿市の緊急医療体制は、厳しい状況にあると思うが現状と今後の体制づくりは。また妊婦健康診査の公費負担回数の拡充実施の方向性と平成23年度以降の継続実施の考え方は。

**答弁1(2)** 昨年来、応急診療所や救急受け入れ病院の

当番制の整備を図ってきた。今後も継続的に支援し、また救急医療機関を適切に利用していただくなどの啓発活動を積極的に行っていく。平成23年度以降は国の施策、市の財政状況等により検討していく。

**質問1(3)** 災害時のマンホールを利用したトイレシステムの詳細や、防災等に対する考えは。

**答弁1(3)** 災害時に避難所となる場所18カ所に5年間で整備。協定締結にむけ協議中。広報やHPやCNSを通して防災情報を提供し地域の防災力を高め啓発に努めている。「新型インフルエンザ対策本部」を組織し対応マニュアルを作成していきたい。



## 緑風会 彦坂 公之 議員



- 1 市長の政治姿勢について
- 2 行財政改革について
- 3 第2次行財政経営計画について

**質問1** 2期目折り返しにあたり、公約実現の自己評価と今後の目標は。

**答弁1** 魅力と活力のあるまちを目指し市民の市政への参加、産業の発展と観光促進、「鈴鹿ブランド」の創造、安心安全なまちづくり、誰もが元気で生きがいを見出せ夢をもてる環境づくりという5つの柱を掲げ推進してきた。今後も目指すべきビジョンの実現に向けこれまでの取り組みを踏まえ着実に市政運営を行っていきたい。

**質問2** 現下の経済状況を考えると、当面厳しい財政状況での市政運営となることが予想される。本計画を

前倒し、スピード感を持って推進すべきと考える。市長の行政改革に対する考えを問う。

**答弁2** 厳しい財政状況の中、施策を実施していくには、不要不急の事業の精査をし最大の行政サービスが可能になるよう行財政改革を推進していく。

**質問3** 平成21年度から始まる第2期行財政経営計画の中に戦略的事業「地域経済の活性化」「効果的な行政運営の推進」でどのような事業に取り組むか。

**答弁3** 地域経済の活性化のため、第一次産業に対しては地産地消事業の促進を図り、第二次産業には、企業立地の支援をしている。また効果的な行政運営には、広告事業の展開や効果的な納税方法の導入をし、自主財源の確保に努めていく。

## 政友会 大杉 吉包 議員



- 1 不況に伴う財政再建策について

**質問1** 世界経済は「100年に一度」の激震に見舞われ本市の財政状況に大きく影響をきたし各事業の遅れが懸念される。市民の皆様にも最大限のサービスをするためにはまず財政を豊かにしなければならない。予算編成の内容又財政状況、そして再建策について問う。

**答弁1** 市税収入としては56億近い額が前年度に比べ減収するものと考えている。事業の先送り等苦渋の選択もあったが、市民生活に密着した行政運営に視点を置き質の向上に努めることを基本に予算編成に当た

った。経費削減面からは人件費の抑制を図るため75名の職員数の削減を目標に取り組んでいる。特別職についても今議会に「市長及び副市長等の給与の特例に関する条例の制定について」の市長等の給与を減額する議案を提出している。財源確保面としては一つに産業政策上、本市の基幹産業である輸送用機械器具製造業等の育成と共に様々な業種を集積することでバランスのとれた産業構造を構築することが長年の懸案事項でもあり食品、医療関係などの業種についても積極的に接触しビジネスチャンスの創出並びに本市への進出を働きかけている。今後は、企業誘致を有利に進めることができる、ソフト的受け皿を整備することが喫緊の課題であるとも考えている。